

宗禪寺土曜講座

# 二宮神社から島田家文書へ

## (二宮神社の算額と島田家文書)

令和元年11月16日

於：宗禪寺

山口正義

# 内容

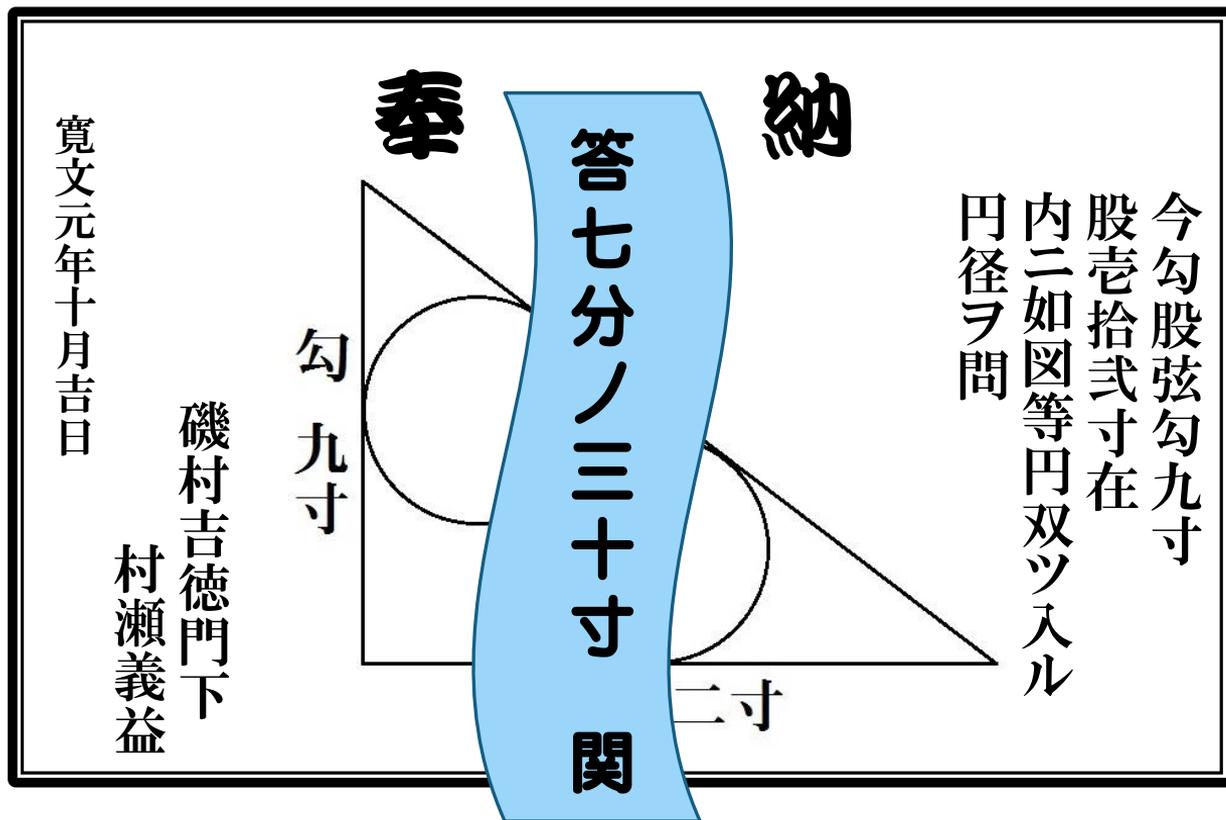
## 算額(和算)

1. 算額について
2. 和算小史
3. 算額の写真
4. 二宮神社の算額

## 古文書

5. 島田源兵衛
6. 島田家文書から

# 1. 算額について(1) 小説の題材から



- 『天地明察』(沖方丁)
- 渋谷金王八幡で見た「勝負絵馬」

⇒ **算額**

# 1. 算額について(2) 小説の題材から

- 算額を見ていた人

渋川晴海(1639~1715)、貞享暦、幕府天文方

- 一瞥即解した人

関孝和(1642?~1708)、点竄術、算聖

- 出題者

村瀬義益(?~?)、

著書『算法勿憚改』(寛文13年(1673))は、算額について言及した最初の本。目黒不動に掲げられていた算額について記し、且つ「時のはやり事にや惣而爰(ここ)かしこの神社に算法を記掛侍る事多し」

# 1. 算額について(3)

## 1) 算額とは

- 寺社に奉納した「数学の絵馬」
- 問題が解けたことを神仏に感謝して奉納
- 人の集まる寺社を利用して研究発表、宣伝

## 2) 算額の数

- 現存884面(埼玉87、群馬77、千葉33、東京16)  
文献紛失1741面(埼玉62、群馬89、千葉83、東京369)
- 1800～1850年(文化 文政 天保) 45%  
1850～1900年(嘉永～慶応 明治) 30%

# 1. 算額について(4)

## 3) 算額の構成



## 2. 和算小史(1)

### 1) 和算と算額

- 和算とは日本で独自に発達した数学(算学・算術)
- 算額の内容は和算で書かれている(縦書き、漢文調)

### 2) 江戸初期

- 1600頃: 『算用記』(最古の数学書)
- 1627 : 『塵劫記』(吉田光由、ベストセラー、標準的教科書)
- 1641 : 『新編塵劫記』(吉田光由、遺題本) ⇒ **遺題継承**

### 3) 関孝和(1642?~1708)

- 点竄術(傍書法、文字式による筆算=代数)、
- 円や曲線の問題(円理)など多くの分野で新たな発明

## 2. 和算小史(2)

### 4) 円理の問題

- 和算では円の面積、球の体積などを求める円理の問題が重要
- 関孝和は円周率を小数点以下10桁まで求める
- 建部賢弘(関門人)は円周率を小数点以下40桁まで求める

### 5) 江戸中期

- 安島直円は円や弧背などの曲線の面積を求める方法を導き出した
- 算額奉納の風習が盛んとなり、算額集も出版される(『神壁算法』など)

### 6) 江戸後期(最も和算が輝いた時期)

- 日下誠、和田寧は豁術(積分法)を創出し、円理の問題を完成

## 2. 和算小史(3)

### 7) 和算をやった人

- ・江戸中期までは、幕臣や侍など身分の高い者が多い
- ・江戸後期には地方の商家や農家の人も高度な数学を嗜む

### 8) 明治になっても和算は盛んだった

- ・明治5年の学制で和算は廃止も、地方では活発、算額の掲額も続く
- ・明治6年からの地租改正では測量や地図の作成で貢献

### 9) 和算が西洋数学に匹敵する程発達。 ⇒「**遺題継承**」と「**算額奉納**」

### 10) 和算が到達した最高レベルの書物の紹介

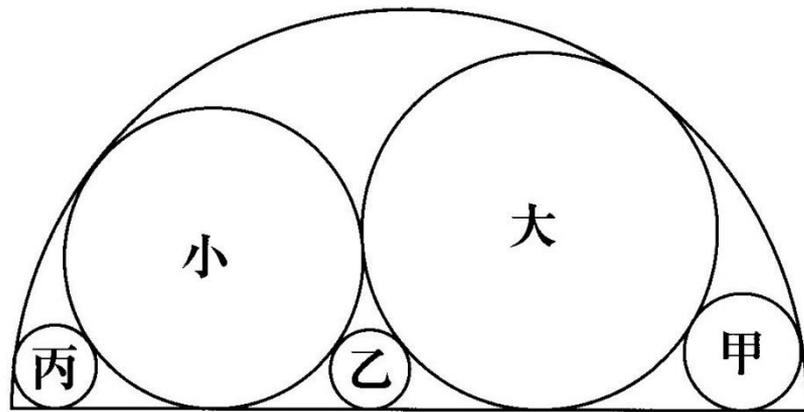
- ・『**算法求積通考**』(内田久命編)天保15年(1844年)刊本、全5巻
- ・曲線や曲面で囲まれた面積や体積を求める求積問題の解説書
- ・和算の最高峰の名著。精細な印刷。慶応3年のパリ万博に出品



### 3. 算額の写真例(1)

府中市 大國魂神社の算額(明治18年 小俣勇造門人36名 36問 222×121cm)





甲円径が36寸、乙円径が22寸のとき、丙円径は幾つか

### 3. 算額の写真例(2)

八王子 住吉神社の算額(嘉永4年(1851) 片倉の川幡元右衛門門人5名 復元)



# 奉獻

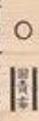
## 関流



如圖有空貴問等円至  
答云等円至若干



空貴



於是起本術

故本術曰置一箇減円責率余名天  
以乘空貴二段平方開之得數以  
天除之得等至合問



如圖矢若干玄若干問等  
円至 答云等円至若干

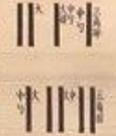


括之起本術

故本術云置玄昇以矢除之加矢八段名  
置玄昇加矢昇四段以極除之得等至合問

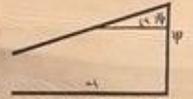


如圖三角面大円至若干  
問小円至 答云小円至若干



於是起本術

故本術置三箇開平方二約之專以除三角面專也  
置甲來大円延昇加乙置三角面來大運得之以減  
丙餘乘甲置之置小円至以甲除之加三角面二倍減甲  
因大至取余長自之以減丁拿方開之加戊以甲二段  
除之得小円至合問



長見  
甲乙丙若干問丁  
本術云置丙名入置甲乘乙以  
天除之得丁合問

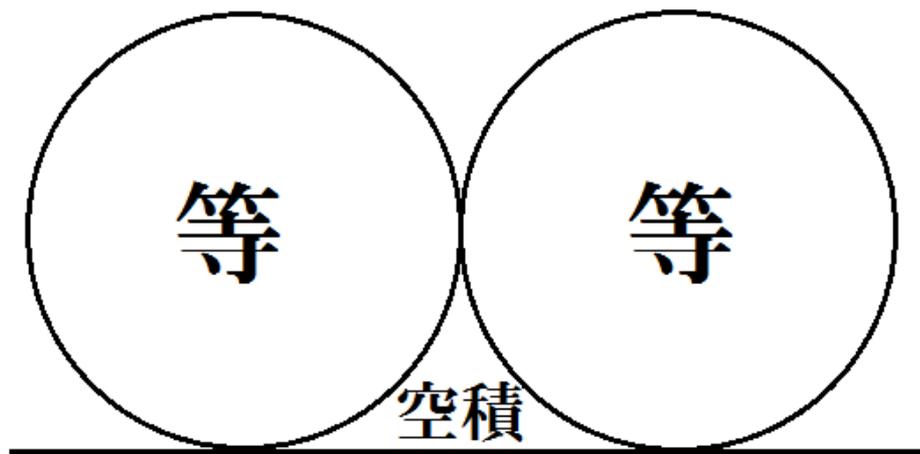
- 川幡元右衛門泰吉
- 門人 鈴木新治郎泰平
- 同所 杉本甚藤吉安乘
- 打越 青木彦三良算考
- 片合 網木重兵衛金布
- 同所 森田兩大良扶正

## 関流

詞時嘉永四年庚辰吉日

昭和六十二年一月廿日復元奉納氏子  
松川忠雄謹書

関流、4問、川幡元右衛門門人5名、昭和62年復元



空積を知って等円径を求める問題

# 3. 算額の写真例(3)

吉見町 吉見観音の算額(文政5年(1822) 矢嶋久五郎 2問 152×80cm)  
(坂東11番札所)



## 1問目

菱形内に4つの等円が内接する場合に、円径と菱面等を問うもの。

## 2問目

直角三角形内の二つの円の直径を問うもの。

・下段に門人23名

### 3. 算額の写真例(4)

滑川町 内田祐五郎頌徳碑(昭和8年 内田祐五郎門人)



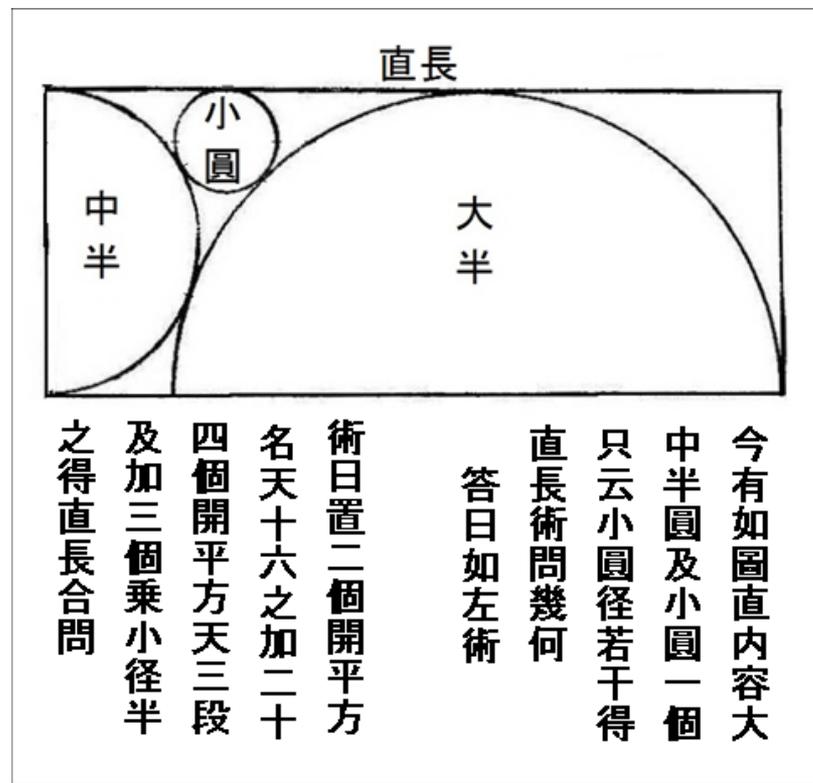
羊



今有如置直內容大  
 中羊置及小圓一個  
 只去小圓徑若干得  
 道長術問幾何  
 答曰如左術

術曰置二個開平方  
 名天十六之加二十  
 四個開平方天三股  
 及加三個乘小徑羊  
 之得道長合問

內



$$\text{直長} = \left( \sqrt{16\sqrt{2} + 24} + 3\sqrt{2} + 3 \right) r$$

### 3. 算額の写真例(5)

富津市 六所大明神の算額(明治4年 鈴木治兵衛重昌門人2名 159×162cm)



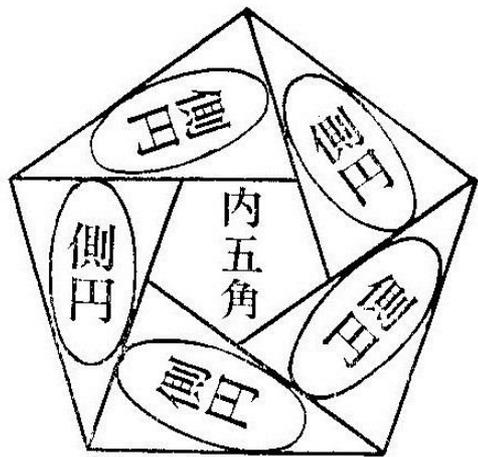
拝殿



拝殿内部

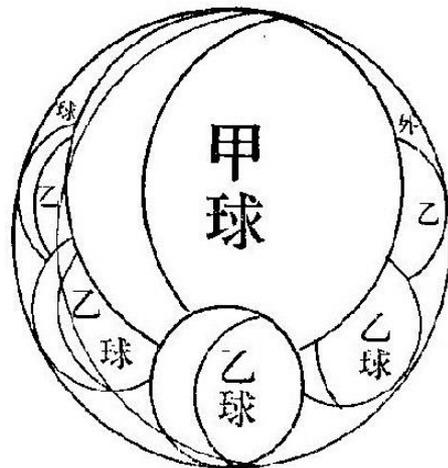


千葉県富津市寺尾 六所大明神 算額(明治4年)



## 2問目

二等辺三角形の中に側円があるとき、等辺が15寸側円の短径が1寸なら、長径は幾つか



## 1問目

環状に並んだ7個の乙球の上に甲球がありその全体が外球の中に接するようになるとき、外球が12寸甲球が8寸なら、乙球は幾つか

## 4. 二宮神社の算額(1)

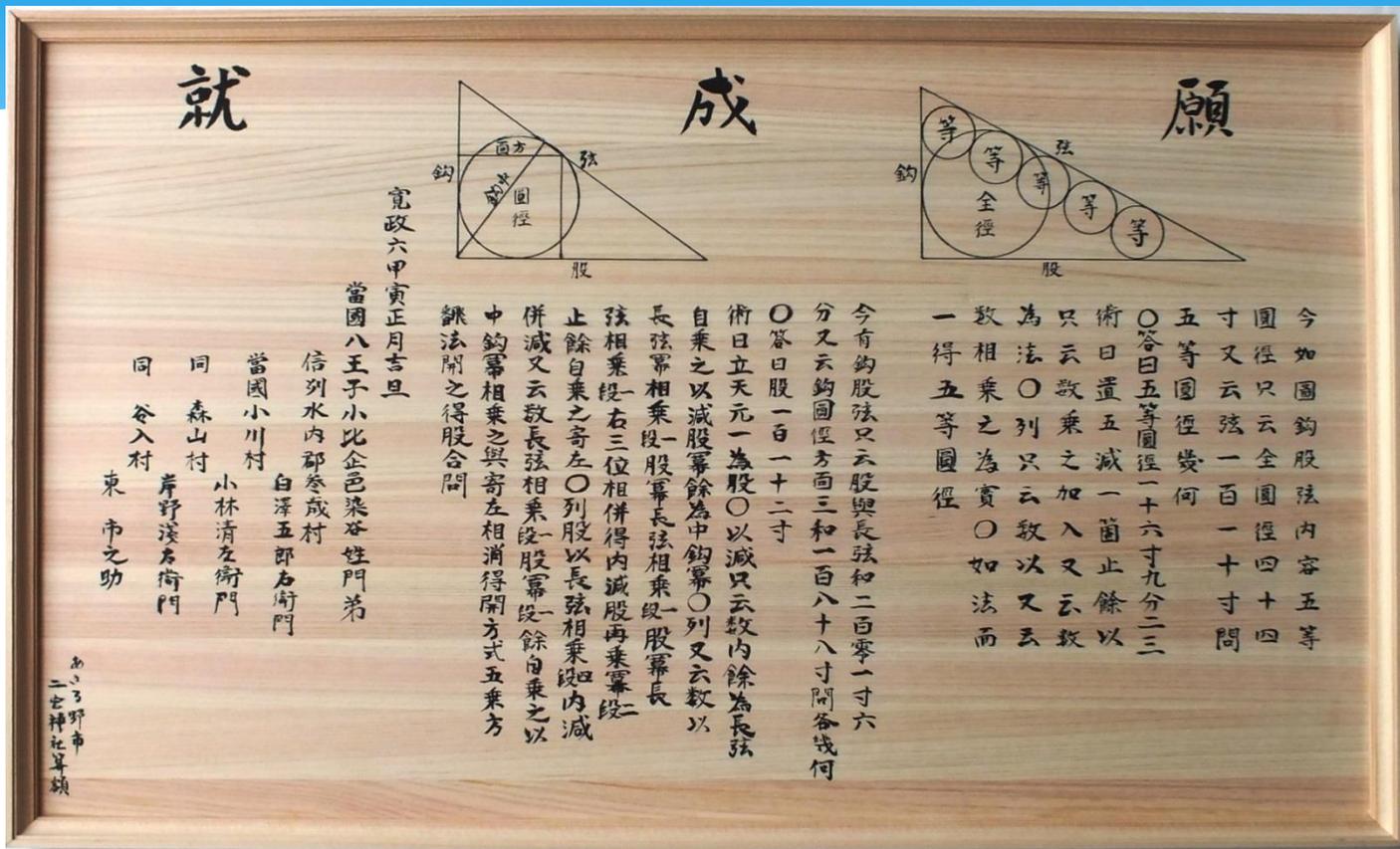


- 武蔵国多摩郡小川郷の鎮守、「小河大明神」とも
- 武蔵国の二宮、一宮には小野神社
- 三宮は氷川神社、四宮は秩父神社、五宮は金鑽神社、六宮は杉山神社

# 4. 二宮神社の算額(2)



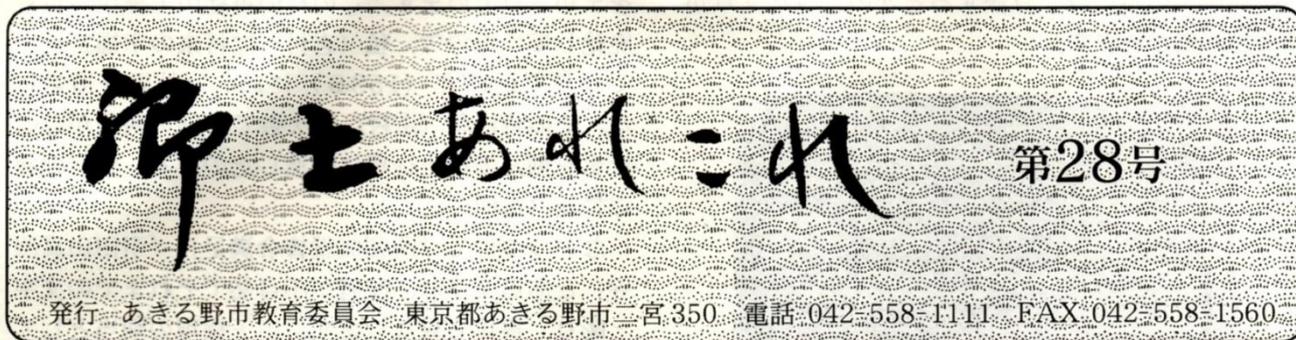
# 4. 二宮神社の算額(3)



復元算額 50×30cm 実物の約1/2

# 4. 二宮神社の算額(4)

平成28年9月1日



## 新たに市指定文化財となった絵馬二点に歴史を読む

— 真照寺の猿曳駒<sup>ざるひきこま</sup>絵馬と二宮神社の算額<sup>さんかく</sup>絵馬 —

齋藤 慎 — (武蔵御嶽神社古文書学術調査団委員)

### (1) 引田山真照寺所蔵「猿曳駒<sup>ざるひきこま</sup>絵馬」

この絵馬のつくられたのは天正<sup>てんしょう</sup>17年(1589)。その翌年天正18年6月23日に八王子城落城、7月5日に本城小田原城は開城、後北条氏は豊臣秀吉へ降伏するという緊張した年代でした。絵馬は17歳の志村

を陽刻しています。

ずいぶん長期間、版木として使用されたため磨滅し墨で黒光りしていますが、材質は硬く桜と思われます。寸法は縦23.7cm、横16.7cm、厚さ1.2cmで縦長、二つ折した半紙と寸法がぴたり同じであることは大事な点で、はじめから、紙製の絵馬を刷るた

## 4. 二宮神社の算額(5)

- 上段に「願成就」、寛政6年(1794)正月の掲額
- 當国八王子小比企邑染谷姓門弟〔八王子小比企町〕  
〔天文曆学者染谷春房(『桑都日記』)。関孝和の門人石谷昌益から関流の秘書を授けられた、つまり関孝和の孫弟子(?) (『松屋筆記』)] (『新八王子市史』)
  - 信州水内郡参歳村 白澤五郎右衛門〔長野市西三才か〕
  - 當國小川村 小林清左衛門〔あきる野市東秋留地区〕
  - 同国森山村 岸野淺右衛門〔あきる野市草花字森山〕
  - 同国谷入村 東市之助〔日の出町平井字谷ノ入〕
- 額は杉材の節なし板で、墨彩色の黒い額縁 89×49cm
- 五日市郷土館に保管(非公開)

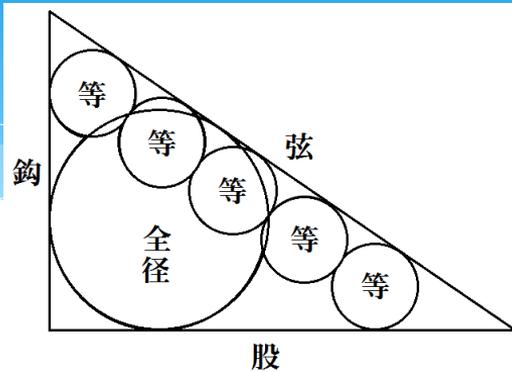
## 4. 二宮神社の算額(6)

### 【一問目】

直角三角形の中に図のように五つの等円があり、大きい円(全円)が内接している時に、全円の直径が四十四寸(只云)、直角三角形の斜辺が百十寸(又云)の場合、等円の直径は幾つか

答は十六寸九分二三

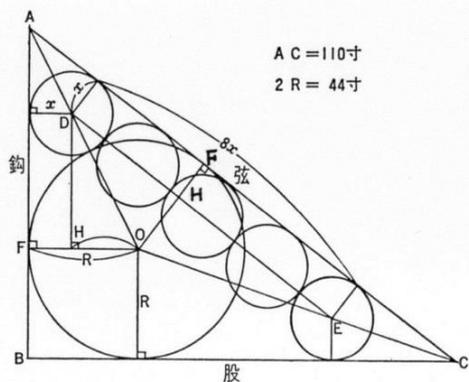
求め方は、五を置き一を減じ余りに只云の数(四十四)を乗じ、これに又云の数(百十)を加えて法(割る数)とする。また、只云の数に又云の数を乗じて実(割られる数)とする。そうして五つの等しい円径を得る



$$\begin{aligned}
 \text{円径} &= \frac{\text{只云の数} \times \text{又云の数}}{(\text{5} - 1) \times \text{只云の数} + \text{又云の数}} \\
 &= \frac{44 \times 110}{(\text{5} - 1) \times 44 + 110} = \frac{4840}{286} \\
 &= 16.923 \dots
 \end{aligned}$$

# 4. 二宮神社の算額(7)

## 解法の一例 『秋川市史』 P964より



〔問〕 上の図のように5つの小円が互いに外接し、 $\triangle ABC$ に内接している。 $\triangle ABC$ の内接円の直径が44寸、AC(弦)=110寸のとき、小円の直径を求めよ。

〔解〕

$\triangle OAC$ において

$$DE // AC \text{より } DE : AC = OD : OA \dots\dots ①$$

OよりACに垂線AFを引き、DEの交点をHとする。

$$OD : OA = OH : OF \dots\dots ②$$

$$①, ② \text{より } DE : AC = OH : OF \dots\dots ③$$

いま、小円の半径を  $x$ 寸とおくと、 $DE = 8x$

$$OF = 22 \text{より } OH = OF - HF = 22 - x$$

$$AC = 110$$

したがって③より

$$8x : 110 = (22 - x) : 22$$

$$22 \cdot 8x = 110(22 - x)$$

$$x = \frac{110 \cdot 22}{8 \cdot 22 + 110}$$

$$= \frac{2420}{286}$$

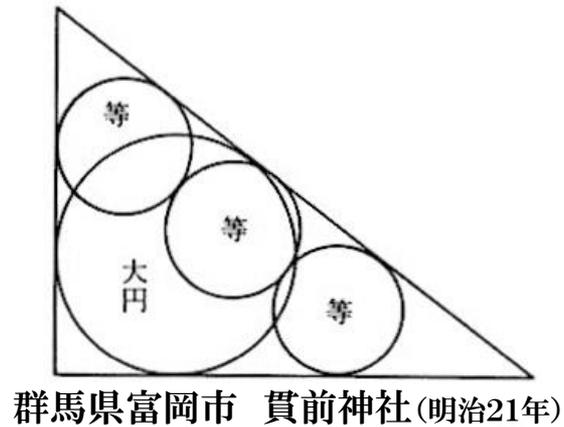
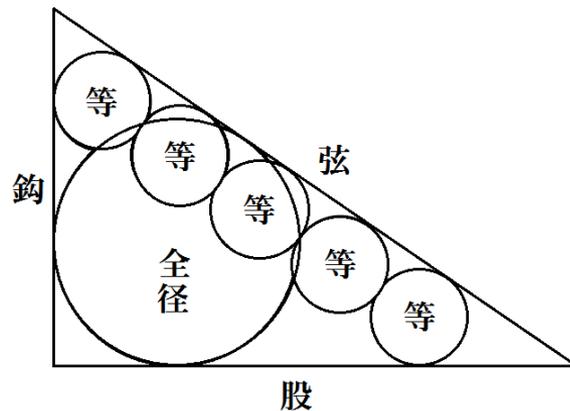
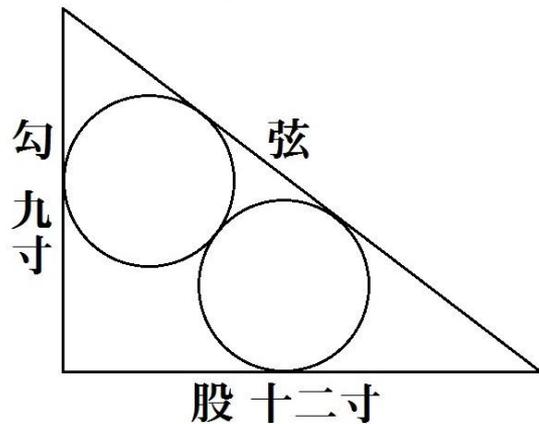
$$= 8.4615384 \dots\dots$$

$$2x = 16.923076$$

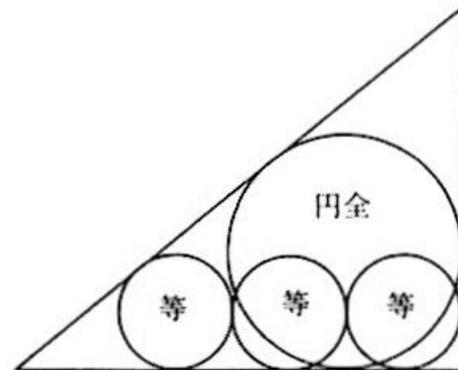
$$= 16 \text{寸 } 9 \text{分 } 23076$$

(誤植あり)

# 4. 二宮神社の算額(8)

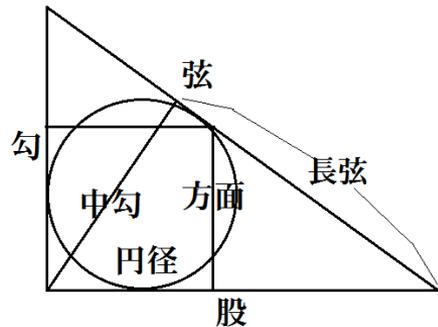


$$\text{円径} = \frac{\text{全円径} \times \text{斜辺}}{(\text{N} - 1) \times \text{全円径} + \text{斜辺}}$$



# 4. 二宮神社の算額(9)

【二問目】



今有鈎股弦只云股與長弦和二百零一寸六分又云鈎圓徑方面三和一百八十八寸問各幾何  
 ○答曰股一百一十二寸  
 術曰立天元一為股○以減只云數內餘為長弦自乘之以減股算餘為中鈎算○列又云數以長弦算相乘一段股算長弦相乘一段股算長弦相乘一段股算併得內減股再乘算一段止餘自乘之寄左○列股以長弦相乘一段內減併減又云數長弦相乘一段股算一段餘自乘之以中鈎算相乘之與寄左相消得開方式五乘方翻法開之得股合問

今直角三角形があり、只云は股と長弦の和が二百一寸六分、又云は鈎と円径と方面の和が百八十八寸、各長さは幾つか。

答、股の長さは百一十二寸。計算方法は天元の一を立てる。股を以て只云の数から減じ、中鈎の二乗と方面の数を以て長弦の二乗を減じ、股に長弦の二乗を乗する、この三つを加えたものの三乗の二倍を減じ、その乗して左に寄せて……(略)

詳細はホームページ  
 「やまぶき和算と歴史随想」  
 を参照下さい

三股 二倍 二乗 三乗 三股

## 4. 二宮神社の算額(10)

### 二宮神社の算額の意義

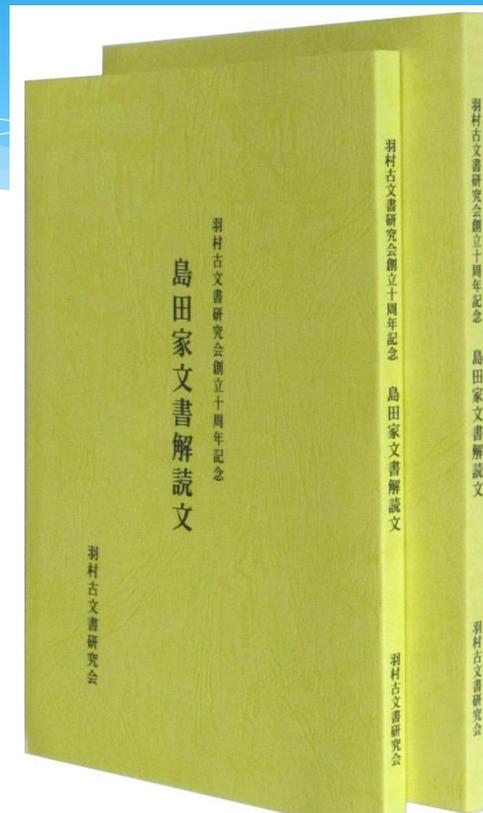
- 都内現存算額中、一番古い
- 文章は明確に読める
- 術文はが具体的に書かれている
- 西多摩地方唯一の和算史料

これだけのものが掲額されたにも拘らず、その後の西多摩地方で和算の発展がないのは・・・

**復元算額を作りたい！**

# 羽村古文書研究会と島田家文書

- 平成19年10月 「古文書解読入門講座」  
(羽村市郷土博物館)
- その後会を創立(15名)、今まで約1500丁の古文書を読む。
- 「島田家文書」も読む
- 平成30年4月 創立十周年記念で『島田家文書解読文』作成  
(今年、『多摩のあゆみ』に紹介される)



# 5. 島田源兵衛(1)

## 1) 略歴

- 島田源兵衛廣基(文政12(1829)～明治39(1906))
- 古里村生れ。羽村の名主坂本家に止宿勉強中、人材を見込まれ島田家の養子(21歳)となり、名主(24歳)となる  
〔明治初年の旧羽村は中分・上分・東ヶ谷戸の3名名主。明治3年には一人になる(『羽村町史』)〕
- 名主として手腕を発揮し幕府から感状を貰う(安政6年、31歳)
- 拜島町他24ヶ村の名主大惣代(慶応2年、38歳)
- 神奈川第12大区6番組戸長(明治6年、45歳)
- 多摩村村会議長(明治12年、51歳)
- 西多摩村初代村長(明治22年6月～25年3月、60～62歳)
- 多摩地方最初の郵便局を設置し初代局長(明治29年、68歳)
- 享年78歳(明治39年12月)、積徳院殿廣道源基大居士

## 5. 島田源兵衛(2)

### 2) 玉川上水の通船(羽村郷土博物館特別展資料『玉川上水羽村堰』より)

- 明治2年9月、砂川村の源五右衛門・羽村の源兵衛・福生の半十郎らが通船の願い、翌3年5月より船運が開始される。(40~41歳)

### 3) 俳諧宗匠(島田秀男氏「羽村における俳諧史(二)」(『博物館紀要』33号)より)

**松廼門閑嶺**(まつのとかんれい)、20代前半頃から

- 時めくを嫉まぬはこのさくらかな (明治5年、43歳)  
そね
- 苺入れ捜す叱言に暮の月 (明治13年、51歳)
- 蝸牛のぼる気になれ富士の山 (辞世)  
かたつむり

(その外、禅林寺での句合の選者など)



西多摩村初代村長(市役所応接室)

## 6. 島田家文書(1)

### 1) 島田家文書の種類

- 御用留・・・4種類 135丁

- 元治元年御用留(7丁)

- 慶応元年御用留(53丁)

- 明治2年御用留(54丁)

- 明治4年御用留(21丁)

【御用留とは、領主からの触・廻状などの下達文書と、村から領主に提出した訴状・願書・戸籍届などの上申文書の写しを書き留めた帳簿】

- 歎願綴り

- 慶応2年(武州一揆関連) (41丁)

【一揆が鎮圧された後、逮捕者の釈放のための歎願書】

卷之二

慶應元年壬午  
御用留  
五月三日

## 6. 島田家文書(2)

### 島田家文書の具体例

- パリ万博出展募集 (慶応2年5月)
- 盗賊に襲われた話 (明治2年9月)

### 具体例1(パリ万博出展募集)

- 1) 島田家文書「慶応元年御用留」のパリ万博出展募集の文章
  - 慶応2年5月15日付け
  - 慶応3年(1867)4月から開催されるパリ万国博覧会への出展募集
  - 形式的とはいえ、百姓町人までも募集対象

## 6. 島田家文書(3)

### 2) パリ万博について

- 日本が初めて参加した国際博覧会
- 江戸幕府、薩摩藩、佐賀藩が(別々に)参加
- 幕府は将軍慶喜名代徳川昭武(あきたけ)をはじめ総勢30名程を派遣  
  渋沢栄一や清水卯三郎等の商人、旅芸人、芸者
- 衣服・漆器・銅器・武器・鋳物・書籍等々  
  武器(刀剣・銃・鎧等)  
  書籍(江戸名所図会・東海道名所図会・北斎漫画等)

『算法求積通考』も出展された

島田家文書「慶応元年御用留」より  
パリ万博出展募集(慶応二年五月十五日)

来卯三月 仙<sup>7</sup> 蘭<sup>2</sup> 西<sup>2</sup> 国都府ニおひて  
朱印<sup>1</sup> 月<sup>1</sup> 以<sup>1</sup> 奉<sup>1</sup> 申<sup>1</sup> 上<sup>1</sup> 取<sup>1</sup> 集<sup>1</sup> 展<sup>1</sup> 観<sup>1</sup> 端<sup>1</sup>  
字<sup>1</sup> 内<sup>1</sup> 各<sup>1</sup> 州<sup>1</sup> 出<sup>1</sup> 産<sup>1</sup> 之<sup>1</sup> 物<sup>1</sup> 品<sup>1</sup> を<sup>1</sup> 取<sup>1</sup> 集<sup>1</sup> 展<sup>1</sup> 観<sup>1</sup> 端<sup>1</sup>  
之<sup>1</sup> 内<sup>1</sup> 各<sup>1</sup> 州<sup>1</sup> 出<sup>1</sup> 産<sup>1</sup> 之<sup>1</sup> 物<sup>1</sup> 品<sup>1</sup> を<sup>1</sup> 取<sup>1</sup> 集<sup>1</sup> 展<sup>1</sup> 観<sup>1</sup> 端<sup>1</sup>  
相<sup>1</sup> 開<sup>1</sup> 候<sup>1</sup> = 村<sup>1</sup> 御<sup>1</sup> 国<sup>1</sup> 産<sup>1</sup> 之<sup>1</sup> 物<sup>1</sup> 品<sup>1</sup> を<sup>1</sup> 取<sup>1</sup> 集<sup>1</sup> 展<sup>1</sup> 観<sup>1</sup> 端<sup>1</sup>  
お<sup>1</sup> 申<sup>1</sup> 上<sup>1</sup> 取<sup>1</sup> 集<sup>1</sup> 展<sup>1</sup> 観<sup>1</sup> 端<sup>1</sup> 送<sup>1</sup> り<sup>1</sup> 有<sup>1</sup> 之<sup>1</sup>  
候<sup>1</sup> 様<sup>1</sup> 申<sup>1</sup> 上<sup>1</sup> 取<sup>1</sup> 集<sup>1</sup> 展<sup>1</sup> 観<sup>1</sup> 端<sup>1</sup> 送<sup>1</sup> り<sup>1</sup> 有<sup>1</sup> 之<sup>1</sup>  
御<sup>1</sup> 用<sup>1</sup> 留<sup>1</sup> 申<sup>1</sup> 上<sup>1</sup> 取<sup>1</sup> 集<sup>1</sup> 展<sup>1</sup> 観<sup>1</sup> 端<sup>1</sup> 送<sup>1</sup> り<sup>1</sup> 有<sup>1</sup> 之<sup>1</sup>  
出<sup>1</sup> 産<sup>1</sup> 之<sup>1</sup> 物<sup>1</sup> 品<sup>1</sup> 同<sup>1</sup> 所<sup>1</sup> 江<sup>1</sup> 差<sup>1</sup> 送<sup>1</sup> り<sup>1</sup> 度<sup>1</sup> 望<sup>1</sup> 之<sup>1</sup> も<sup>1</sup> の<sup>1</sup> 八<sup>1</sup>  
其<sup>1</sup> 節<sup>1</sup> 江<sup>1</sup> 可<sup>1</sup> 申<sup>1</sup> 立<sup>1</sup> 且<sup>1</sup> 自<sup>1</sup> 姓<sup>1</sup> 町<sup>1</sup> 人<sup>1</sup> 二<sup>1</sup> 而<sup>1</sup> も<sup>1</sup> 同<sup>1</sup> 様<sup>1</sup> 差<sup>1</sup> 出<sup>1</sup>  
御<sup>1</sup> 用<sup>1</sup> 留<sup>1</sup> 申<sup>1</sup> 上<sup>1</sup> 取<sup>1</sup> 集<sup>1</sup> 展<sup>1</sup> 観<sup>1</sup> 端<sup>1</sup> 送<sup>1</sup> り<sup>1</sup> 有<sup>1</sup> 之<sup>1</sup>

度<sup>1</sup> も<sup>1</sup> の<sup>1</sup> 八<sup>1</sup> 御<sup>1</sup> 差<sup>1</sup> 許<sup>1</sup> 可<sup>1</sup> 相<sup>1</sup> 成<sup>1</sup> 候<sup>1</sup> 間<sup>1</sup> 是<sup>1</sup> 亦<sup>1</sup> 其<sup>1</sup> 筋<sup>1</sup> 江<sup>1</sup>  
可<sup>1</sup> 申<sup>1</sup> 立<sup>1</sup> 旨<sup>1</sup> 其<sup>1</sup> 筋<sup>1</sup> 御<sup>1</sup> 達<sup>1</sup> 有<sup>1</sup> 之<sup>1</sup> 条<sup>1</sup> 得<sup>1</sup> 其<sup>1</sup> 意<sup>1</sup>  
此<sup>1</sup> 廻<sup>1</sup> 杖<sup>1</sup> 村<sup>1</sup> 名<sup>1</sup> 下<sup>1</sup> 江<sup>1</sup> 名<sup>1</sup> 主<sup>1</sup> 令<sup>1</sup> 受<sup>1</sup> 印<sup>1</sup> 早<sup>1</sup> 々<sup>1</sup> 順<sup>1</sup> 達<sup>1</sup>  
留<sup>1</sup> り<sup>1</sup> 村<sup>1</sup> 名<sup>1</sup> 可<sup>1</sup> 相<sup>1</sup> 返<sup>1</sup> 候<sup>1</sup> 上<sup>1</sup>  
御<sup>1</sup> 用<sup>1</sup> 留<sup>1</sup> 申<sup>1</sup> 上<sup>1</sup> 取<sup>1</sup> 集<sup>1</sup> 展<sup>1</sup> 観<sup>1</sup> 端<sup>1</sup> 送<sup>1</sup> り<sup>1</sup> 有<sup>1</sup> 之<sup>1</sup>

寅  
江川太郎左衛門  
五月十五日  
送  
所

羽村始外ハナリ  
五月廿日拜見  
定例

島田家文書  
具体例1  
原文(1/1)

・字内=天下

## 6. 島田家文書(4)

### 具体例2(盗賊に襲われた話)

1) 島田家文書「明治2年御用留」の9月晦日付けの記述(3丁)

#### 2) 事件概要

- 明治2年9月28日夜(この頃は月のない闇夜、盗賊には好都合)
- 覆面した盗賊6人、1人は外を警戒、4人は抜き身、1人はピストル
- 細縄で家の者を脅し縛り上げ
- 3時間余りに渡り探し、金品17品目を奪い、逃げ去った。  
金銭(大凡80両)、織物・風呂敷・脇差し
- 箱根ヶ崎に駐在する役人は「届け不要」と言ったとか・・・

## 6. 島田家文書(5)

3)この事件の内容は下記資料に詳しい。

岩波浩吉郎氏「『よろずや』が盗賊に襲われた話－明治2年のある事件－」

(『会報羽村郷土研究』第86号)

4)この資料は、維新直後の金融、防犯、村の体制、特産品などを  
知ることができる貴重資料。

「よろずや」は岩波氏の生家の屋号。生糸、繭の買付販売、  
呉服商い、荒物商い(生活用品)、臨時の質屋を営業。

島田家文書  
具体例2  
原文(1/3)

① 戸口外ニ相控居四人ハ拔身ヲ携

② 武州多摩郡羽村名主源兵衛奉申上候  
 ③ 当村百姓茂吉義高式石八斗余所持家内  
 ④ 五人暮ニ而農間糸繭并荒物渡世□□  
 ⑤ 候処当月廿八日夜平常之通り戸アリいたし  
 ⑥ 打臥候処同夜九ツ半時与覚江裏入口  
 ⑦ 戸胡辞放し不見知もの面体ヲ包  
 ⑧ 老人入口外ニ相控居四人ハ拔身ヲ携

⑨ 月三ノハヒスルルヲ持押入の老女ハ御座  
 ⑩ あり心不月々ノノ不残縛上ケ声立  
 ⑪ 候ハ、可切殺杯申聞宅内悉相探奪取  
 ⑫ 候品々左之通り御座候

⑬ 一 壹兩札五拾枚  
 ⑭ 一 壹分札五兩一分也  
 ⑮ 一 天保銭八兩餘

- ① 乍恐以書付奉申上候
- ② 武州多摩郡羽村名主源兵衛奉申上候
- ③ 当村百姓茂吉義高式石八斗余所持家内
- ④ 五人暮ニ而農間糸繭并荒物渡世□□
- ⑤ 候処当月廿八日夜平常之通り戸アリいたし
- ⑥ 打臥候処同夜九ツ半時与覚江裏入口
- ⑦ 戸胡辞放し不見知もの面体ヲ包
- ⑧ 老人入口外ニ相控居四人ハ拔身ヲ携
- ⑨ 内老人ハヒストルヲ持押入有合候細繩
- ⑩ 等ヲ以家内之もの不残縛上ケ声立
- ⑪ 候ハ、可切殺杯申聞宅内悉相探奪取
- ⑫ 候品々左之通り御座候
- ⑬ 一 壹兩札五拾枚
- ⑭ 一 壹分札五兩一分也 (二枚)
- ⑮ 一 天保銭八兩餘

大政官札

島田家文書  
具体例2  
原文(2/3)

① 文久銭四百文  
 ② 保字老分金壹ツ (保字金、保印)  
 ③ 文字老分金壹ツ (文字金、文印)  
 ④ 古式朱銀式ツ  
 ⑤ 豆銀 壹ツ  
 ⑥ 黒八丈 六疋  
 ⑦ 鉄色海気外取合七式疋程 (海気、甲斐絹)  
 ⑧ 飛色縮老疋程 (縮、絹)  
 ⑨ 木綿浅黄五布風呂敷老ツ但(正印有之)  
 ⑩ 同無地三布風呂敷老ツ  
 ⑪ 脇差 式本  
 ⑫ 縮袷里糸少々  
 ⑬ 拾七品  
 ⑭ 右之品々奪取明七ツ時頃立去り候ニ付  
 ⑮ 直様鳴ラ立候ニ付兼而手筈いたし置候間

⑧ 一 保字老分金壹ツ  
 ⑦ 一 文字老分金壹ツ  
 ⑥ 一 古式朱銀式ツ  
 ⑤ 一 豆銀 壹ツ  
 ④ 一 黒八丈 六疋  
 ③ 一 鉄色海気外取合七式疋程  
 ② 一 飛色縮老疋程  
 ① 一 木綿浅黄五布風呂敷老ツ但(正印有之)  
 ⑩ 一 同無地三布風呂敷老ツ  
 ⑨ 一 脇差 式本  
 ⑧ 一 縮袷里糸少々  
 ⑦ 一 拾七品  
 ⑥ 一 右之品々奪取明七ツ時頃立去り候ニ付  
 ⑤ 一 直様鳴ラ立候ニ付兼而手筈いたし置候間

- ① 文久銭四百文
- ② 保字老分金壹ツ (保字金、保印)
- ③ 文字老分金壹ツ (文字金、文印)
- ④ 古式朱銀式ツ
- ⑤ 豆銀 壹ツ
- ⑥ 黒八丈 六疋
- ⑦ 鉄色海気外取合七式疋程 (海気、甲斐絹)
- ⑧ 飛色縮老疋程 (縮、絹)
- ⑨ 木綿浅黄五布風呂敷老ツ但(正印有之)
- ⑩ 同無地三布風呂敷老ツ
- ⑪ 脇差 式本
- ⑫ 縮袷里糸少々
- ⑬ 拾七品
- ⑭ 右之品々奪取明七ツ時頃立去り候ニ付
- ⑮ 直様鳴ラ立候ニ付兼而手筈いたし置候間

# 島田家文書 具体例2 原文(3/3)

① 村方一同欠付次第竹鎗其外得物ヲ携四方  
 ② 道筋追欠候得共暗夜之義故何分  
 ③ 行衛相知レ不申午去無程夜明ニも  
 ④ 間近ク殊ニ其節握り飯等持出候ニ付

⑤ 最寄山隠居等可致も難計夫々手配  
 ⑥ 探索いたし候得共更ニ相知レ不申其余  
 ⑦ 手掛り等一切無御座候依之此段御訴  
 ⑧ 奉申上候以上

⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①  
 村方一同欠付次第竹鎗其外得物ヲ携四方  
 道筋追欠候得共暗夜之義故何分  
 行衛相知レ不申午去無程夜明ニも  
 間近ク殊ニ其節握り飯等持出候ニ付

⑨ 明治二巳年九月晦日  
 源兵衛

⑩ 右 名主 源兵衛

⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①  
 是ハ箱根ケ崎ニ而御調役補  
 安東奥造様江差出ス御役所江  
 届ケ候ニ不及趣被仰渡候事

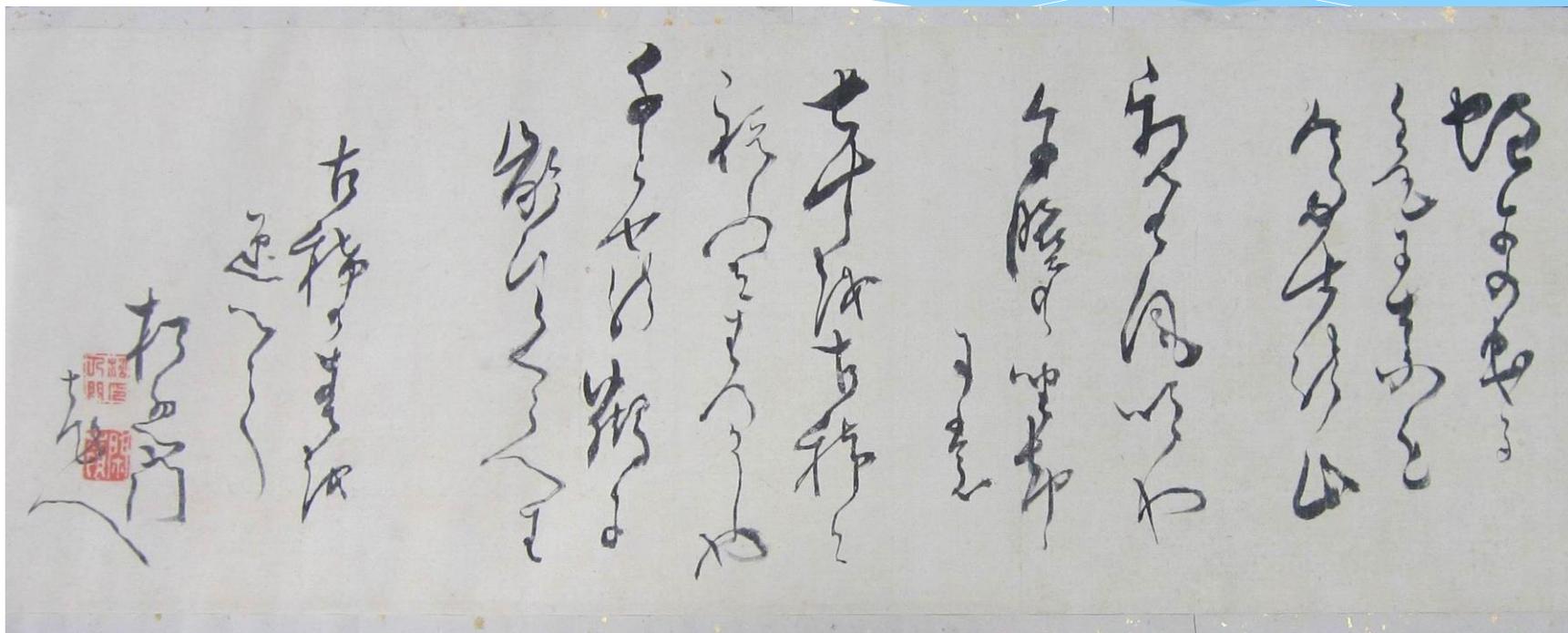
⑩ 菫山縣  
 御役所  
 ⑪ 是ハ箱根ケ崎ニ而御調役補  
 ⑫ 安東奥造様江差出ス御役所江  
 ⑬ 届ケ候ニ不及趣被仰渡候事

# 最後に(1) (和歌)

古希の春をむかへて

・七十を古希と祝ふははづかしや

千とせの嶽に齡ひくらば



## 最後に(2) (辞世)

### 島田源兵衛の辞世(墓の背面)

• なか居していとわるゝてはなけれども

先づ古ゝいらておいとまにせん

(いとわるる(厭わるる):いやがられる)

• 極楽も地獄の道も苦にならず

ねたままで行く旅路なりせは



積徳院殿源兵衛之墓  
(稲荷神社西側)



「二宮神社の算額と島田家文書」ということで、

- ・算額や和算の歴史
- ・島田家文書の具体例

などをお話しさせていただきました。

ご清聴ありがとうございました。



(和算に興味をお持ちの方、一緒に活動しませんか)  
(ホームページ「やまぶき 和算と歴史随想」)